

## あとがき

本書は、実に多くの方々のご協力によって発刊の運びとなった。

第1の協力者は多数の修了生のみなさんである。本書に掲載されたデータは、アンケート調査および聞き取り調査に応じて下さった約100名（アンケートは匿名のため両調査の重複数は未確定）の日本福祉大学大学院社会福祉学研究科福祉マネジメント専攻（旧称）修了生のご協力で得られたものである。感謝申し上げたい。

第2の協力者は、聞き取り調査員をお引き受け下さった、大学院修了生の後藤康文さん、小阪菜穂美さん、松井ゆかりさん、茂大祐さん、眞境名望さん、越後美由紀さん、小笠原真紀さん、データのグラフ化にご協力いただいた新見早苗さんである。感謝申し上げる。

本調査の設計・集計・入力・分析および、本書の編集・執筆を推進したのは、大学院教育改革支援プログラム（大学院GP）の「大学院と福祉現場の循環システム構築ワーキンググループ」（野口定久、児玉善郎、末盛慶、鍋谷州春）である。同時に修了生を中心とする福祉マネジメント研究会事務局長後藤康文さん（再掲）、同幹事小阪菜穂美さん（再掲）が入力・分析・執筆および10数回の編集会議に自主参加下さったことは大きな力となり、大学院と福祉現場の循環を具現化するものとなった。お2人に心からお礼を申し上げる。

本書は、2007年度から3年間の大学院GP推進事業の主要事業の一つとして日本福祉大学大学院創設40周年の年に刊行された。その真価は今後の大学院教育改革に修了生の「生の声」をどう生かすかによって試されると思われる。